改造の程度については大に工夫を要する點である。宗内一部には大改造論者もあると聞くが、大改造を施すならば寧ろ全部新築する方がよい。唯だ現在宗門は之を許さぬ事情もあることを思ひ、可及的理想に近い制度の樹立に努力すべきである。

法主卽管長制度に宿る中心確立の精神を飽迄尊重し、今後あらゆる機會にこれが强化擴充を計り以て宗門の自覺を促し、完全に從一出多從多歸一の宗門を實現して、宗祖の御聖意に副ひ奉る日の、一日も速かならんことを念願して已まぬ。

法國冥合の現證

柴田一能

一、新制度の將來と豫兆

祖廟中心制度の確立に對する慶讃の辭並に感想の一端は、教報七月號「中心制度確立奉告大慶典

記念號」の誌上に禿筆を馳せた通りで、大方讀者の電覽を得たことを蔭ながら光榮と存じて居つた處、又々棲神編輯局から「法主卽管長記念號」に何か感想を寄稿せよとの、有りがたい仰せを蒙つたのであるが、既に盛大な奉告大慶典も無事に濟み、十月お會式月の二十六日午前十時より、宗務院樓上の大廣間に登壇を築いて、漢口陷落祈願の國禱會を修行する機會を以て、新制度によつて選擧當選せられた新管長としての望月法主猊下並に新總監鹽出孝潤師の就任祝賀の宴が開かれる豫定であつた所、武漢三鎭の攻略に向つた皇軍の快速部隊は、文字通り早や漢口の一部に入城したと云ふニュースが入つた騷ぎに、當日俄かに立看板を貼りかへて「漢口入城祝賀會」と早替りをさせたなどは、是亦快速的臨機の所置であると感服した。併し東京府下三百の寺院並に近縣本山や有志寺院等無慮五百の大衆が、雲の如く集まつたのは、近年稀に見る所であると、風評された程の盛會であつたので、新管長大導師の下に嚴修された國禱會の木劍の音にも膏が乘り、讀誦の聲にも潑溂たる生氣が漲つて居つた。特に目立つたのは大本山池上本門寺酒井貫主を始め近縣各本山の貫主方が、總動員の姿でズラリと座を並べられた光景は、全く空前の事であつて、法主卽管長制度充實の將來に何物をか齎らすべき自然法爾の前兆ではあるまいかと、第六感に響いたのである。

二、新制度議決の瞬間を追懷して

「法主卽管長」といふ標語を强調して、宗門人の注意を此の一點に集注せしめ、明治廿一年の諮問

總會當時に於ける颱風的――爆彈的スローガンであつた「廢本合末」に引火させないようにと、人に知れぬ苦心焦慮は、恐らく當局首腦部以外には知る人とてはなかりけりであつたらうと思ふ。苦心は決して無駄ではなかつた。第三十三宗會議場は「法主卽管長論」「管長卽法主論」との論戰で火花を散らせ、合末も廢本なぞといふ怖ろしい機雷には觸れないで、ゲン〳〵と軌道に乘つて行つた。增田議長滿堂の空氣が法主卽管長論者に有利なりと看るや、機敏とや言はん、老巧とや名けん、管長卽法主論者に一言容喙の遑さへ與へず、電光石火の採決「原案贊成絕對多數」と宣告した。吉倉議員の滿場總起立玄題三唱の緊急動議に、反對論者も我を忘れて起立し、聲高く唱和した風景は全く人間業ではないと感ぜられた。冷靜に立還つて之を考へて見ると、是亦新制度强化の前途に一種の暗示を與へるかの如く感ぜられたのである。

三、根本的宗門機構の再建

現行宗門の機構は本末制度であつて、總大五山に三十九箇本山、總計四十四箇本山の配下に三千六百の末寺を分轄しつゝあつて、法制上の祖廟中心は成立したとは言へ、內容に於ては何等の變革もなく新味も何もないのである。祖廟を中心とする身延は同時に宗門の中心となり、祖山は宗門に解放されたが三千の末寺を分擔して居る四大本山と三十九箇本山は舊態依然として存續して居るの

である。宗門唯一の總本山とは言ひながら、實はその末寺たる五百餘箇寺に擁立されて居る一本山に過ぎなかつたのが、茲に一躍全宗門の身延となつたのは可いが、同時に是迄の五百有餘の末寺は何うなるのか、本末制の上に立つてゐる以上、本山には末寺がなければならず、末寺には又本山がなければならない。勢の然らしむる所、怖いから恐ろしいからと云つて百年河清を俟つてゐる譯には行かない。祖廟中心制の內容充實を計ると共に自餘の四十三本山の發展をも遂げ云云といふ慶讃の辭を寄せた大德もあつたようであるが、果して兩立するであらうか。明治維新以後に於ける日本帝國の隆々たる、文化的發展は、一に德川氏の太政奉還、――大小名の藩籍奉還の結果に歸せねばならぬ事實を見れば、奚に宗門新制度の行くべき道を示唆されてゐるではないか。斯る根本機構から再建して掛らねば、眞實大宗門としての進展は到底實現することは不可能と信ずるのである。世界的日本長期建設の途上にある日本國民――別して末法應時の救世敎を擁しつゝある宗門人は、本山未寺倶に深刻なる自己檢討を行ひ、切角樹立せる法主卽管長の時代適應の新制度をして看板倒れに委せてはならない。

四、祖廟の備整と奉仕會の責務

以上は主として新制度の完成に向つて宗門人の執るべき精神的覺悟態度に關する卑見であるが、

第二には斯の如く全宗門人の精神的統一の目標たるべき身延西谷祖廟の改修備整の事業であつて、時局の然らしむる所、僅かに岡山縣下道俗の祖廟參道改修、大阪府下道俗の常經殿新築の分擔に止り、而も之が實行は今次事變の終結を竣ねばならぬ停頓の狀勢に餘儀なくせられて居る始末で、祖廟奉仕會の前面に横はる幾多實行上の難關を想へば、實以て氣も遠くなるやうに感ぜられるのであるが、如何なる障碍が起らうとも乘りかゝつた以上碼頭の岸壁に着くまでは進航を繼續せねばならない。

五、歴史的最後の門末會と其成果

折柄配達し來つた教學新聞を見ると去る九日十日に亘つて第十三回臨時門末議會が總本山舊書院で開かれ、新制度に伴ふ同山々規の改正に就て愼重審議が行はれた模樣で、豫而宗務院當局と山務當局との間に煉り上げた「總本山久遠寺護持規則綱領」が提出され、殆んど無修正で通過したとの報道を得た。同規則は十五箇條より成り、（一）總本山、（二）久遠寺住職、（三）會議、（四）山務役員、（五）會計の五要項に關する規定である。一寸目新らしく感ぜられるのは「祖山會」の新設であつて、久遠寺住職は祖山會の協贊を經て山規を施行することゝなり、該會は祖山會議員を以て組織し久遠寺住職之を任命すとあつて、末寺中から互選せられた者、宗會議員中から互選せられ

た者及び宗門に功績ある者から特選され、任期は四年となつて居る。つまり是迄の門末會に代り一般宗門的となり、從つて從來の常置會も同樣擴大した畑から擧げられる順序となり、是迄の執事長は「總務」と改稱し、宗機參議會で銓衡した候補者中から、管長の任命で披擢されることゝなり、歳入歳出豫算も祖山會の協贊を經ることに改正されて居る。要するに過渡的便法に外ならぬ感のもので、深く時局に顧みる所あつて、暫くこの程度で我慢をしやうと云ふ、漸進主義の方針で行くのだとあれば、我亦多くを言はんやである。人は制度に動かされ、規則に支配されるが、制度や規則を活かし若くは殺すのも亦人である。他律的規定である限り制度規則は死んで居る。自律的の精神魂魄から發した規律でなければ眞に自己を制し、他を律することは出來ないであらう。

六、祖廟中心の完成と切なる祈り

宗祖の御在山と同樣、此後九箇年在職の保障を護られた新法主卽管長たる望月日謙大僧正は、必ず爲す有るべく期待を懸けられつゝある鹽出新總監の補佐と相俟て、祖廟中心の完成を目指して倍々加餐自重せられむことを爲法爲國切望悃願の至りである。

漢口廣東攻略後の皇軍は更に新段階に向つて躍進を續行しつゝある。東亞建設の明朗なる前途は、日一日と光明に照らされつゝある。伏して願くは斯の如き洋々たる正義國家の進展に連れて正法護國を宗是とする我が宗風の大々的に宣揚せんことを……南無妙法蓮華經。